

平成30年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

校訓	「誠の心にしたい信念を貫く」		重点目標	(1) 学力の充実を図る。 自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化により学力を充実させる。 通信端末による視聴覚教材を活用し、学習習慣の確立、基礎学力の定着、学習到達度の向上を目指す。 (2) 日々満足できるような充実した生活をする。 自己を大切に、他への思いやりをもつ。 自ら考え、正しく判断し、よりよく表現や行動ができる。 (3) 社会に貢献する態度と能力を養う。 社会人となるにふさわしい人格を形成する。 目標を持って、自らの未来を切り開いていく。	学校法人 誠恵学院 誠恵高等学校 校長 馬場 克治	
	校訓の「誠の心にしたい信念を貫く」のもとに、実践力のある生徒の育成を図る。				(評価) B	(評価文) 生徒の人間性を豊かにし、生徒が日々目標を持って何事にも自主的・能動的に取り組む教師の意図的・計画的な取り組みに課題が残る。
学校教育目標	未来を広げる高い学力・・・教科学習の充実、学力向上。 意欲に満ちた輝く生徒・・・自ら学ぶ力、思考力、判断力、表現力を高める。					
重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	①自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化に力を入れる。学力の定着と学習意欲の高揚を図る。	予習・復習の習慣化、学力の定着化を図るための手立ては（小テスト等）適切であったか。	B	授業の際、次回の授業内容の範囲に合致するスタディサプリの講座を紹介することで、予習の定着に努めたが、取り組みに個人差が見られた。復習については、学習内容のまとめプリント等を制作し、配布することで概ね達成できた。	B	繰り返し学習ができるまとめプリント等、復習に関する教材準備や取り組み指導は十分に行われている。今後、スタディサプリを効果的に活用した予習について、より一層の創意工夫が望まれる。
	②充実した指導計画のもとに教科指導を行い、多読、繰り返し学習などにより、「わかりやすく」「魅力ある」学習を展開する。	多読や繰り返し学習、また、「わかりやすく」「魅力ある」授業を行うことができたか。	B	各定期試験前に試験範囲の復習授業を行うことで、多読と繰り返し学習を行うことができた。通常の授業では、生徒の身近な話題に例えて説明するなどして、「わかりやすい」授業を心がけた。「魅力ある」授業に関しても、視聴覚教材を適切に活用することで概ね達成できた。	A	各教科指導は、生徒一人ひとりの特性に合わせて丁寧に行われている。そのため、「わかりやすい」指導となっている。しかし、より「魅力ある」授業となるように、各教科のみでの取り組みだけではなく、教科横断的な学習が望まれる。
	③補助教材として「スタディサプリ」を活用し、自学自習による学力の向上を目指す。	「スタディサプリ」を活用した学習に目標を持たせ、意欲的に取り組ませることによって、基礎学力を向上させることができたか。	B	校内のWi-Fiを利用して、意欲的に動画視聴をする生徒が増加したが、基礎学力がどの程度向上したかを確認する場面が少なく、成果については不明である。今後、確認する仕組みを用意する必要がある。	B	視聴時間や確認テストの正答率を競いながら学習に取り組む生徒が増加した。また、達成感が生徒の学習意欲につながっている。今後は、理解度が意欲につながるような効果的な学習方法、教材活用方法等の提案が望まれる。
	④目的意識を持って学習に参加できるようにする。漢字検定、英語検定、数学検定及び情報各種検定、その他検定試験に挑戦し、資格取得者を増やす。	目標を持って選択教科の学習に取り組みませ、興味・関心・意欲等を高め、成果を上げることができたか。	B	長期休業を利用して、ITパスポート試験の対策講習や実用英語技能検定試験の対策授業を行うなど、意識を高め、成果を上げる工夫をしたが、希望者のみの参加であったため、全体での取り組みが今後望まれる。	B	情報各種検定試験や英語検定試験において、多くの資格取得者を輩出した。しかし、上級取得者は少数に留まっているため、より上級に挑戦する意識を高める指導をして欲しい。

重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	⑤個に応じた指導、習熟度等に対応した授業の工夫・改善により、分かりやすい授業を行う。	校内研修や各教科部会等での研修を通して、学習指導法の改善に努めることができたか。	B	スタディサプリの全体研修を通して、指導法について考えることができた。しかし、各教科での研修の機会が乏しく、個人的な改善に留まってしまった。今後は教科主事を中心に、教科全体で学習指導法の改善に努めたい。	B	多様な生徒の学力や意欲によく対応している。現状に留まることなく、生徒の学力を更に引き上げるような指導を進めて欲しい。
2. 日々の生活の充実を図る	①自己を大切にし、他人への思いやりを持った責任ある行動をとる。生徒との意見交換を通して、生徒を育てる。自らの意志と責任で行動できるようにする。	全教育活動を通して個に応じた指導を進め、また、カウンセリングマインドで生徒に接し、生徒の心を育てる教育が実践できたか。	A	生徒と会話する機会を多く設け、その中で生徒自身が問題と向き合い、解決するまでの支援を徹底することができた。またカウンセラーと連携を取りながら指導することができた。	A	休み時間も職員が生徒に寄り添って生活するなど、会話する時間が十分に確保されている。また、日常の何気ない会話を通して、生徒の成長をよく支援している。
	②生徒の良い点を伸ばし、改めるべきことは改めさせてやる気を育てる。	生徒ひとりひとりに改めるべきことを自覚させ、良さを見出し、意欲の向上につなげることができたか。	B	生徒に改めるべき部分を指摘する際は、根拠を示すように心がけた。また、継続して声がけをしながら見守り、改善された時には、褒めることによって生徒に変化を実感させることができた。	A	生徒自身も自己の成長について実感ができるような、段階的な指導ができています。粘り強い生徒指導に好感が持てた。
	③挨拶・言葉遣い・服装等を正し、遅刻・欠席の防止、清掃の指導を徹底する。教職員は倫理を重んじ、自己試練を含め厳格なる手本を示し、生徒の範となるよう努める。	教師として厳粛なる倫理観のもと生徒に範を示し、遅刻・欠席を減らす指導や、適切な挨拶、言葉遣い、服装等の生活指導を、厳しくまた温かく進めることができたか。	B	挨拶はしっかりと止まってから大きな声でするよう教員自らが心がけ、生徒に範を示すことができた。言葉遣いや服装については、乱れていると感じた際にすぐに指導することを心がけた。遅刻・欠席を減らす指導に関しては、家庭と連携して行ったが、改善につなげることが難しかった。	A	挨拶や言葉遣いをはじめとした基本的な生活習慣の指導は徹底されている。遅刻・欠席を減らす指導に関しても、家庭訪問を積極的に行い、家庭と連携して指導に当たっている。
	④社会に出て認められる人間になるよう自らを伸ばし、他とともに切磋琢磨する。社会貢献の気持ちを育てる。	授業・諸活動の体験等を通して、ボランティア精神や社会貢献の気持ちを高めることができたか。	B	通学路清掃や沼津御用邸記念公園での奉仕活動、火災防災講座などの特別活動を通して、社会の一員であることを実感させ、社会貢献の気持ちを高めることができた。しかし、場面が限られてしまったため、今後は毎日のホームルームや授業を通して、継続した指導を心がけたい。	B	諸活動の中で、地域の方に感謝される等の体験を通じ、社会貢献の気持ちが育まれている。
	⑤生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を徹底し、生徒の指導すべき点は同一歩調で対応し、その場で正し、職員の連携を図る。細心の注意をもって生徒・保護者との信頼関係の構築に努める。	生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を適切に行い、保護者との連携のもと全校体制での対応ができたか。	B	教員間や家庭との「報・連・相」を徹底した。学校での生徒の様子を保護者に正確に伝えるため、複数の教員での面談を心がけた。	B	家庭への報告や連絡は細かくなされていた。今後は、生徒の「成長像」を家庭と職員が共有できるように、教育相談の機会を増やして欲しい。

重点目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
3. 社会に貢献する態度と能力を育てる	①社会人となるにふさわしい健康管理を身につける。	生徒自らが進んで規律正しい生活、健康の保持・増進等に努めることができる指導を適切に行い、その成果をあげることができたか。	B	今年度は、インフルエンザの流行になかなか歯止めをかけることができなかった。また、近年、携帯電話への依存から、睡眠時間が確保できない生徒が増加傾向にあるため、家庭と連携した睡眠指導を徹底する必要がある。	B	感染が予想される病気に対し、流行の兆候が出る前に対策を講じる必要がある。また、早寝早起きだけではなく、食生活や適度な運動を心がけるなど、日頃から健康に対する意識を高める指導を行ってほしい。
	②目標を持って自らの未来を切り拓いていく。	個性に応じて進路が決定できるようにするため、一般的な教養を高め、専門的な技能の習得に努めさせることができたか。	B	ホームルーム活動の一環で一般教養や SPI の問題に取り組んだが、専門的な技能の習得は今一步であった。芸術コース・情報処理コースにおいては、生徒の個性に応じて、専門的な技能の習得に努めることができた。	A	放課後や長期休業を利用して、デッサン指導や情報各種検定資格取得に向けた指導を丁寧に行っていた。また、希望者を募って模試に取り組むなど、個性に応じた対応ができていた。
	③「社会に必要とされる人材の条件」を理解させ、人生を豊かにできるよう指導する。進路指導計画の充実を図り、保護者・生徒との相談に応ずる。	進路指導を計画的に進め、資料提供や進路相談を適切に行い、進学・就職指導に留まらず生き方指導につなげることができたか。	B	オープンキャンパスや進路ガイダンスへの参加、資料請求を促すなど、進学・就職指導を適切に行うことができた。また、進路に関する生徒との対話を通して、生き方指導を行うことができた。	A	進路相談や三者面談を積極的に実施し、家庭と連携して進路指導を行っていた。それにより、経済状況などに配慮しながらも、生徒の希望とすり合わせ、生き方指導にもつながることができていた。
	④進学コース、普通コースの指導を充実させ、国立大学、有名私立大学への進学を増やす。	進学希望者への学習支援を行い、学習環境を整え、受験への対応ができる指導を進め、成果を上げることができたか。	B	これまでの指定校推薦入試や AO 入試に偏った指導から、センター試験や一般入試も重視する指導に転換し、国公立や有名私立の大学に挑戦する生徒の増加に努めることができた。今後、実績につながるよう、より指導を強化する必要がある。	B	スタディサプリを活用した学習支援が早い段階からできていた。また、合格特訓プロジェクトをはじめ、難関大学に挑戦するための支援体制が敷かれ、柔軟に対応していた。
	⑤就職指導では、企業訪問など本校の実績を更に高めるよう努力する。	就職希望者の求職意欲を高め、企業訪問を実施し、就職内定率を高めることができたか。	B	早い段階から、希望業種を確定できるよう、就職資料の提示を適切に行った。また、その結果に応じて、企業訪問等、進路開拓に努めることができた。	A	新規に大手企業の求人を得るなど、開拓に努めている。今後は、企業との関係を良好に保てるよう、就職後の生徒の状況にも配慮して指導を行って欲しい。